

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>



読書活動は横浜市民の誇りです

校長 丹羽正昇

ひぐみフェスタ2021は、保護者や地域の皆様のご協力のおかげで、無事に開催することができました。本校の新型コロナウイルス感染症拡大防止への取組に、いつものようにご理解を賜り感謝しております。ありがとうございました。これからも、社会情勢に一喜一憂することなく、ひぐみっ子のことを第一に考えて教育活動を進めていく所存です。引き続き、ご理解とご協力を頂戴できますようお願いいたします。

さて、今月と来月の話題は、読書活動についてです。今月は、横浜市における読書活動の歴史。来月は、地元にある読書活動の源です。読書活動の話題を連続してお届けすることで、読書活動の大切さを感じていただけたら幸いです。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、横浜市では11月を、読書推進月間としています。学校においては、11月の第一金曜日を「はまっ子読書の日」と定め、本校においてもその前後の週などで読書活動を啓発する取組を行っています。この「はまっ子読書の日」は2010(平成22)年の「国民読書年」を機に、子どもの読書活動を推進するために制定されました。また、学校図書館を運営する専門家の学校司書が、2013(平成25)年から順次、小学校、中学校、特別支援学校全校に配置されたのも、市民の読書活動振興の主役は子どもだという思いの表れです。さらには、同年には「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」が、政令指定都市として初めて制定されました(平成26年4月施行)。これらのことは、ここ10年間のことです。横浜市における市民の読書活動に関する歴史を振り返ってみましょう。

市民の読書活動を支えるインフラの代表といえば、市立図書館の存在が挙げられます。横浜市立図書館の歴史は、1921(大正10)年6月11日に横浜公園内仮閲覧所で図書の閲覧を開始したことに始まります。つまり、今年、横浜市立図書館は100周年なのです(特設サイトがあるので興味のある方はご覧ください)。スタートは仮閲覧所でしたが、開業にあたってはしっかりとした建設計画がありました。ところが、その建設計画は、無残にも幻となってしまいます。1923(大正12)年の関東大震災により、図書資料だけでなく建設計画そのものも失うことになったのです。その後、幾度かの移転や太平洋戦争時における軍の接收など、多くの困難が降りかかりました。そのたびに市立図書館の必要性を多くの市民が訴え、積極的に支援活動をしたそうです。その結果、いまでは18区全てに市立図書館が存在し、多くの市民の読書活動を支える拠点として、もしくは憩いの場となっています。

横浜市立図書館の歴史から分かることは、横浜市では市民が読書活動の意義を認め、たえずその推進の後押しをしてきたということです。読書活動が人を育て、その人が地域をつくり、市民自治を形成するという気概に満ちた考えは、横浜市の伝統ある基本概念であり、横浜市民の誇りだと私は思っています。横浜に育つひぐみっ子が、それらを感じられるように、今後ますます読書活動に力を入れていきたいと考えています。学校で、家庭で、地域で、いろいろな場所や機会を捉えて、自ら読書するひぐみっ子。それが私の理想です。その理想を実現するためには、学校教育の力だけでは難しい。とっしょ〜んファミリーのように学校での読書活動を支えてくださる皆様や各家庭のお力添え、そして戸塚図書館との連携が必要だと思っています。今後ともよろしく願いいたします。あっ!戸塚図書館のことで一つ言い忘れていました。戸塚図書館は、1978(昭和53)年11月1日横浜市で四番目の市立図書館として誕生しました。ひぐみっ子の皆さん、歴史ある戸塚図書館を大切にするとともに、どんどん利用していきましょう!

(参考:「横浜市立図書館100周年記念サイト」「横浜市立図書館100周年記念パンフレット」2021)